

網走厚生病院における「北海道オホーツク地域における妊婦のトキソプラズマ感染症の実態調査」という題名の研究に参加された方へ

当院では下記の臨床研究をしております。これは当院の診療情報のみを用いる後向き研究ですが、国の定める倫理指針によって、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

【研究課題】

「北海道オホーツク地域における妊婦のトキソプラズマ感染症の実態調査」

【研究責任者】

網走厚生病院 院長 梶野浩樹

【共同研究者】

網走厚生病院 産婦人科 鈴木賀博

【研究期間】

2025年8月1日～2026年3月31日（データ収集は2025年3月31日までに終了）

【対象となる方】

当院産科を受診し、トキソプラズマ抗体スクリーニング検査をされた妊婦さん

【研究の目的】

この研究の目的は、妊婦さんがこのトキソプラズマに罹らない様にするための方法を考えることです。なぜなら、妊婦さんがトキソプラズマに感染して発症する先天性トキソプラズマ症は、赤ちゃんの脳の発達が十分でなかつたり、目が見えにくいなど重大な障害を起こしてしまうからです。感染予防として、妊婦さんには加熱が不十分な肉を食しない、妊娠中に新しい猫は飼わない、素手でカーデニングを行わない等の指導が行われていますが、当院において妊婦健診の採血によって初感染が疑われる方がしばしばいて、スピラマイシンによる治療が行われています。しかしながら、オホーツク地域において、妊婦さんのトキソプラズマ感染症の抗体検査の結果や治療について、いまだまとまった報告がありません。これを明らかにすることによって先天性トキソプラズマ症の発症予防に寄与できる対策を提案できる可能性があると考えました。

【研究の方法】

2017年度から2023年度の間の妊婦さん1933例の診療録からIgM抗体やIgG avidity検査の結果とスピラマイシン治療歴を拾い上げ、抗体陽性率や治療率を計算します。患者さんに新たなご負担はありません。なお、この研究は当院の倫理委員会で承認されています。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される情報は外部に漏えいすことのないよう慎重に取り扱う必要があります。得られた情報はパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。研究結果は個人が特定出来ない形式で学会等の場で発表されます。

この研究で得られる情報は当院産科の通常の診療範囲の中のものです。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。本研究は、研究の実施や報告の際に都合のよい成績となるよう意図的に導いたりすることはありません。なお、協力をいただいた方への謝金はありません。

研究に参加されなくても不利益は生じません。この研究のために情報を使用してほしくない場合、あるいはご不明な点がありましたら 2025 年 10 月 31 日までにご連絡ください。連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせて頂きます。

問い合わせ先：

網走厚生病院 院長 梶野浩樹

住所 093-0076 北海道網走市北 6 条西 1 丁目 9 番地

電話 0152-43-3157

FAX 0152-43-6586